

第106期中間報告書

2011年3月1日～2011年8月31日

TECHNOLOGY AND KNOWLEDGE ENRICH SOCIETY

株式会社 テークスグループ
TAKES・GROUP LTD.
(旧社名 株式会社東京衡機製造所)
【東証2部上場（証券コード7719）】

TKS report vol.10

■ トップメッセージ/企業理念



代表取締役社長
山本 勝三

平素は格別のご支援、ご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

先般の東日本大震災・福島原発事故で被災された皆様および関係者の皆様には心よりお見舞い申し上げます。一日も早い被災地の復旧復興をお祈り申し上げます。

我が国は、先般の震災によりサプライチェーンの寸断や電力供給不足に伴う生産力の低下、株価の下落、個人消費の低迷など社会経済全体に大きな影響を受けました。今も壊滅的な被害を受けた被災地の復旧に向け沢山の方々が力を尽くしておられますが、いまだに原発事故は収束しておらず、復興財源の問題や今後のエネルギーの問題など課題は山積しております。今後の見通しにつきましては、震災で寸断されたサプライチェーンの回復によって国内景気は自動車業界を中心に海外への輸出に牽引され、緩やかな回復軌道に戻るとみられていますが、歴史的な

円高水準が続いており、欧米のみならず新興国の景気減速懸念もあるため先行きは不透明であります。

このような状況の下、当社グループの第106期上半期は、厳しい経営環境の中で試験機事業、住生活事業、ゆるみ止めナット事業の各事業が安定的に成長していくことができるように、グループ企業間の連携を強化するとともに、営業体制の強化や業務効率の改善に努めました。業績につきましては、グループ全体では、いまだ充分な成果は得られておりませんが、今後も中国子会社を含めたグループ各企業間の連携をより一層深め、成長を続ける中国市場への展開を推進しつつ、主力事業である試験機事業の品質管理とサービス体制の向上を中心に、事業基盤の強化と信頼性向上に努める所存であります。

皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

contents

トップメッセージ/企業理念	1
事業内容	2
事業の概況	3
トピックス	4
特集 試験機の校正とJCSS	5
第2四半期(累計)連結財務諸表(概要)	7
第2四半期(累計)の業績	9
株式情報/会社概要/役員	10



Technology and Knowledge Enrich Society
「技術と知識で豊かな社会の実現に貢献する」

技術への挑戦と 顧客からの信頼

常にお客様の立場に立ち、
“価値ある商品”を提供します。

地域社会への貢献

一人ひとりの“能力・意欲・創意を
尊重する”とともに、やさしさと
温かみのある人間集団を目指します。

人間性の尊重

日々の誠実な活動を通じ、
地域からも“信頼される
企業市民”であり続けます。

事業内容

1923年創業の伝統と高い技術力を誇る試験機事業をはじめとして、
画期的なアイデアで社会に安心と安全を提供するゆるみ止めナット事業など、
技術と知識で豊かな社会の実現に貢献すべく、
様々な事業を展開しています。

試験機事業

試験機の開発・設計・生産からメンテナンス・
校正まで高度な技術力によりワンストップ
ソリューションをご提供しています。



試験機事業

住生活事業

中国子会社の金型成型技術を活かし
暮らしやライフスタイルに関わる生活用品や
アパレル関連商品等の企画開発、製造販売、
各種サービスのご提供を行っています。



住生活事業

TAKES・GROUP
Technology and Knowledge Enrich Society

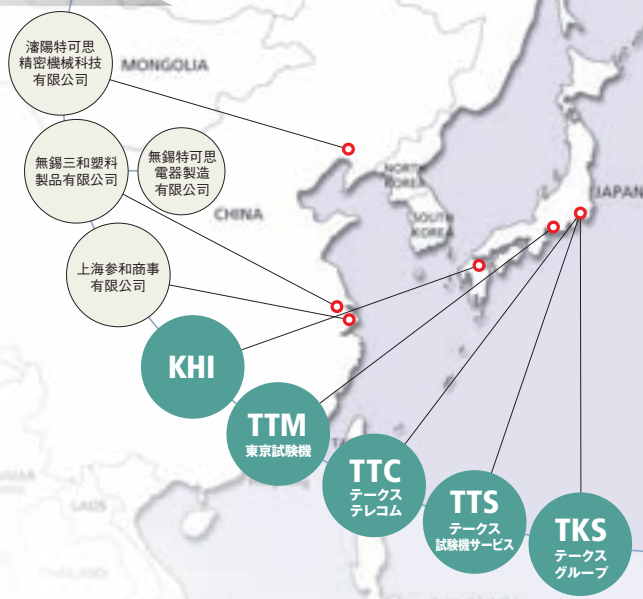
ゆるみ止め
ナット事業

ゆるみ止めナット事業

グループ企業の株式会社KHIが画期的なアイデア
と独自の技術で開発したゆるみ防止スプリングを
内蔵したナットとナットの脱落を防止するスプリング
を製造・販売しています。



アジア地域における拠点



事業の概況

当社グループは、中長期的な経営戦略として、①試験機事業のブランドイメージの強化、②新規事業への積極的参入と収益力の強化、③拡大する中国市場への展開 を掲げ、以下のとおり事業を展開しております。

1 試験機事業の ブランドイメージの強化

2 新規事業への積極的参入と 収益力の強化

3 拡大する 中国市場への展開

TAKE-S-GROUP
Technology will revolutionize your business

試験機事業

当上半期は、受注環境に顕著な改善傾向がみられる中で、プロダクトミックスの見直しやグループ会社相互の連携による顧客基盤の拡大などグループ3社のシナジー効果の追求を継続しました。その結果、一部の特殊な大型案件で原価超過や売上遅れなどがありましたが、修理、メンテナンス、校正などのサービスが好調でこれを補完し、概ね堅調に推移いたしました。今後につきましては、

原発事故の影響で試験機の需要にも変化がみられると思われませんが、引き続き好調なメンテナンス・校正サービスに力を入れるとともに、提携先のZwick社のねじ式材料試験機の販売を通じた医療機器業界やプラスチック業界などの新たな産業分野への展開や、新たに開発したデジタルサーボコントローラをてこにした疲労試験機の拡販を進めていきます。

Testing Machine Business



平面曲げ疲労試験機PBF-60



Zwick 50kN引張試験機

TAKE-S-GROUP
Technology will revolutionize your business

住生活事業

当上半期は、一般消費者向けに展開しているミネラル還元水素水生成器やオゾン脱臭装置などの健康関連商品は堅調だったものの、中国子会社において新製品の市場投入が遅れ経費先行となっていることを主因に損益は厳しい状況となりました。今後につきましては、日本国内は震災の影響もあり消費の低迷は暫く続くものとみられますが、比較的好調な健康関連商品のラインアップ拡充や太

陽光発電システムや個人向け不動産、農産物などの販売に取り組むとともに、中国子会社において中国国内や欧米の市場をターゲットとした家電製品の製造販売を進めていきます。

Living & Lifestyle Business



オゾン水生成器



ミネラル還元水素水生成器

TAKE-S-GROUP
Technology will revolutionize your business

ゆるみ止めナット事業

当上半期は、前期に引き続き、電力業界のほか、高速道路や鉄鋼、産業機械関係などに積極的な拡販活動を継続し、いずれも高い製品評価を受け、着実に市場浸透を進めましたが、汎用サイズの小口径のナットが市場浸透に時間を要し、生産数量が計画数量に達しないため大幅な原価高になっていることなどから、様々な原価低減施策を講じているものの、業績改善には至らず厳しい状況とな

りました。今後につきましては、先般の原発事故により電力設備関係の需要に影響が生じるなど先行き不透明な面もありますが、本年7月にハイパーロードナットが我が国で初めてゆるみ止めナットとして国土交通省のNETISに登録されたことで引合いや問合せも増加しているため、公共工事の入札案件をはじめとして、ゆるみ止め製品の活用場が多方面に広がることが期待されます。

Not Loosening Nuts Business



ハイパーロードナット



ハイパーロードスプリング

トピックス

TEST2011 [第11回総合試験機器展] への出展



日本試験機工業会が試験機専門展として隔年で開催している材料試験、環境試験、計測、評価に関する国内唯一の総合試験機器展「TEST2011」(第11回)が平成23年10月12日から3日間、東京ビッグサイトで開催されました。今回は「未来につなぐ試験と計測 “見せる信頼—確かな品質”」をテーマに行われ、当社も子会社の(株)東京試験機と(株)テークス試験機サービスならびに提携先のドイツの試験機メーカーZwick社の4社合同でブースを出展し、製品の実機デモンストレーション等を行いました。当日は実際に試験機をお使いのお客様をはじめ沢山の来場をいただき、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。



「TEST2011」展示会場（東京ビッグサイト）

ハイパーロードナットのNETISへの登録

当社子会社(株)KHIのゆるみ止めナット「ハイパーロードナット」が平成23年7月29日に国土交通省の新技術情報提供システム「NETIS」(New Technology Information System)に登録されました。NETISは、公共工事における新技術の活用のために、新技術に関わる情報の共有・提供を目的として整備された国土交通省のイントラネットおよびインターネットで運用されるデータベースシステムです。ハイパーロードナットはこれまでも道路設備や橋梁などで広く活用されてきましたが、今後は公共工事をはじめとして更に活用が広がっていくことが見込まれます。

※ 詳細につきましては国土交通省のホームページをご覧ください。



ハイパーロードナット



NETISの新技術検索画面

本店事務所移転のお知らせ

このたび、当社は、経営の効率化およびお客様へのサービス向上を目的に試験機事業本部を中心に組織の合理的統廃合を実施し、従前登記上の本店で行っていた業務の一部を本社・相模工場（神奈川県相模原市緑区）に集約したことに伴い、平成23年12月12日（月）付で右記のとおり本店事務所を移転いたします。

(新住所)

〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町一丁目9番地

電話番号 03-5207-6760 (管理部経理課・グループ管理課) (代表)

03-5298-1801 (住生活事業部)

特集 試験機の校正とJCSS



校正とは……

例えば、ある測定器で測ったら10gだったのに、別の測定器で測ったら15gになるということでは測定値に信頼性がなく、測定の現場では使うことができません。はかりの場合、標準のおもりを載せて測定することで期待する値からどれだけずれているかを知ることができます。このようにどれくらいのずれがあるのかを調べることを「校正」といいます。



試験機の校正に使う力計

JCSS (Japan Calibration Service System) とは……

計量法の校正事業者登録制度のことで、国際基準であるISO/IEC 17025に対応していることが登録の条件となっています。登録審査は独立行政法人製品評価技術基盤機構（NITE）認定センターにより行われ、使用する基準器が国家標準にトレーサブルな校正を受けているか、規格に準じた品質システムが確立され運用できているか、校正スタッフに校正を行うための技術的能力があるかなどのチェックを受けます。これらを通過し校正事業者として登録されると、JCSS標章付の校正証明書を発行することができます。

この校正証明書があれば、日本の国家計量標準へのトレーサビリティが確保されていることが証明できます。逆にJCSSではない一般の校正では、トレーサビリティを証明するために上位標準の証明書やトレーサビリティ体系図などが必要になり、またスタッフの校正に関する知識や能力が公に証明されないなど信頼性も低くなります。

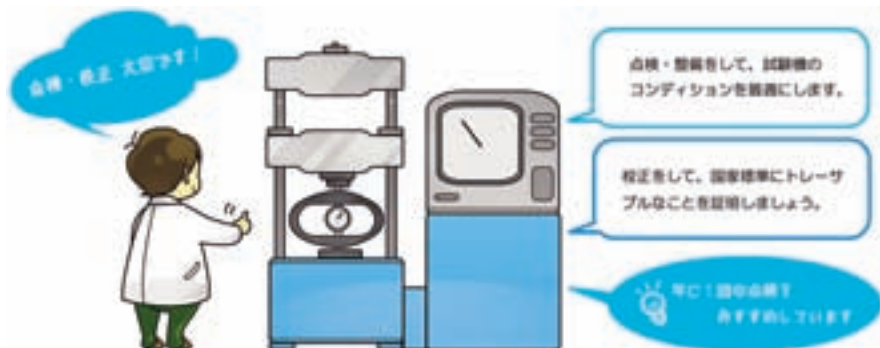


テークスグループの校正サービス……

テークスグループは、油圧式万能試験機やねじ式材料試験機などの「一軸試験機」の校正事業者としてJCSSの登録を受けていて、同時に国際試験所認定協力機構（ILAC）とアジア太平洋試験所認定協力機構（APLAC）の相互承認要求事項に適合する事業者の認定も受けているので、ilac-MRA 標章付の校正証明書を発行することができます。この校正証明書はILAC加盟国のすべてで通用するの

で国際取引をスムーズに行うことができます。

また、グループ子会社の東京試験機も一軸試験機の校正事業者としてJCSSの登録を受けていて、テークス試験機サービスのスタッフもテークスグループの校正グループに入っているため、お客様の試験機の校正に関するご要望は、グループ全体でフルサポートしています。



第2四半期（累計）連結財務諸表（概要）（単位：百万円、単位未満切捨て）

四半期連結貸借対照表

科 目	前第2四半期末 2010年8月31日現在	当第2四半期末 2011年8月31日現在
資産の部		
流動資産	3,032	3,325
現金及び預金 1	1,215	1,052
受取手形及び売掛金	982	1,031
たな卸資産 2	727	1,013
繰延税金資産	5	6
その他	138	248
貸倒引当金	△ 36	△ 26
固定資産	2,838	2,704
有形固定資産 3	2,292	2,271
無形固定資産	284	284
繰延税金資産	15	17
投資その他の資産 4	550	410
貸倒引当金	△ 304	△ 278
繰延資産	0	—
資産合計	5,871	6,030
負債の部		
流動負債	1,315	1,538
固定負債	1,781	1,748
負債合計 5	3,097	3,287
純資産の部		
株主資本 6	2,066	2,059
評価・換算差額等	689	665
新株予約権	18	18
少数株主持分	—	—
純資産合計	2,773	2,742
負債純資産合計	5,871	6,030

Point1 現金及び預金

長期借入などにより資金調達を行ったものの、前期売上高減少に伴う回収減、材料購入や借入金返済による支出などにより、前第2四半期末に比べ1億63百万円減少しております。

Point2 たな卸資産

主に試験機事業の仕掛品の増加により前第2四半期末に比べ2億86百万円増加しております。

Point3 有形固定資産

設備投資として中国子会社の機械設備などが増加したものの、減価償却費の計上により前第2四半期末に比べ21百万円減少しております。

Point4 投資その他の資産

主に中国子会社の収用補償により資金回収となることから破産更生債権等が減少しております。

Point5 負債合計

主に試験機事業の材料などの購入増による買掛債務（支払手形及び買掛金）の増加と資金調達による長・短期借入金の増加により、前年同期比で1億90百万円増加しております。

Point6 株主資本

当第2四半期は2億38百万円の純損失となるものの、前期下半期が純利益となっていたことから、前年同期比ではほぼ横這いとなっております。

四半期連結損益計算書

科 目	前第2四半期（累計） 2010年3月1日～2010年8月31日	当第2四半期（累計） 2011年3月1日～2011年8月31日
売上高 7	1,884	1,974
売上原価	1,447	1,559
売上総利益 8	437	414
販売費及び一般管理費	626	594
営業損失（△）	△ 189	△ 179
営業外収益	20	15
営業外費用	57	45
経常損失（△）	△ 226	△ 208
特別利益	—	1
特別損失 9	48	10
税金等調整前四半期純損失（△）	△ 275	△ 217
四半期純損失（△）	△ 322	△ 238

Point7 売上高

売上高は、試験機事業の一部の大型案件の売上が第3四半期以降へずれたものの、全体では前第2四半期に比べ89百万円増加しております。

Point8 売上総利益

前第2四半期に比べ売上高は増加したものの、試験機事業の原価悪化を主因に売上総利益は22百万円減少しております。また、売上総利益率は2.2ポイント悪化し、21.0%となりました。

Point9 特別損失

主に貸倒引当金繰入額の計上9百万円によるものであり、前第2四半期に比べ38百万円減少しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

科 目	前第2四半期（累計） 2010年3月1日～2010年8月31日	当第2四半期（累計） 2011年3月1日～2011年8月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 79	△ 35
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 15	2
財務活動によるキャッシュ・フロー	18	7
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 8	1
現金及び現金同等物の増加額又は減少額	△ 84	△ 23
現金及び現金同等物の期首残高	1,206	992
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,121	968

第2四半期（累計）の業績

当第2四半期連結累計期間（平成23年3月1日～平成23年8月31日）における我が国経済は、3月11日に発生した東日本大震災による電力供給不足や電子部品等のサプライチェーンの崩壊による生産活動の停滞、放射能汚染の一次産業への深刻な影響、さらにはユーロ危機や米国国債の格下げに伴う歴史的な円高など様々な事象が重なり、予断を許さない状況が続いております。

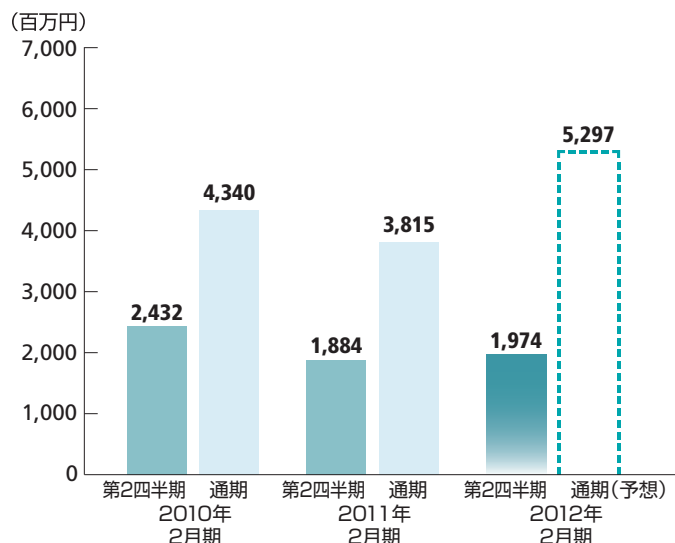
このような状況の下、当社グループは、試験機事業では、リーマン・ショック後ようやく受注環境に改善傾向が見え、一部の大型案件の第3四半期連結会計期間へのずれ込みなどがあったものの、受注、売上とも概ね堅調に回復してきました。次に、住生活事業では、健康関連商品等の取扱商品の拡充や中国や欧米の市場をターゲットとした中国子会社での家電製品の製造販売など新たな取組みを進めております。また、ゆるみ止めナット事業では、ハイパーロードナットが国土交通省の新技术情報提供システム（NETIS）に登録されるなど認知度の向上や市場への浸透は着実に進んでおりますが、原材料価格の上昇や公共投資の削減等の影響により苦戦し、売上は伸び悩みました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高1,974,387千円（前年同期比4.7%増）、経常損失208,909千円（前年同期は226,853千円の経常損失）、四半期純損失は238,434千円（前年同期は322,394千円の四半期純損失）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

事業の名称	売上高（千円）	営業利益（千円）
試験機事業	1,062,305	72,039
住生活事業	808,446	△ 12,221
ゆるみ止めナット事業	103,635	△ 109,378
その他（デジタル事業）	—	△ 6,027

売上高の推移



連結業績ハイライト（単位：百万円、単位未満切捨て）

科目	2009年 8月第2四半期	2010年 8月第2四半期	2011年 8月第2四半期
売上高	2,432	1,884	1,974
営業利益	31	△189	△179
経常利益	△17	△226	△208
四半期純利益	△73	△322	△238
1株当たり四半期純利益（円）	△1.03	△4.52	△3.34
純資産	3,412	2,773	2,742
1株当たり純資産（円）	47.83	38.64	38.20

株式情報

(2011年8月31日現在)

● 株式の概況

発行可能株式総数	260,000,000株
発行済株式の総数 [※]	71,337,916株
株主数	3,700名

※「発行済株式の総数」には自己株式23,430株を含みます。

● 大株主 (上位10名)

株主名	持株数	持株比率
株式会社A.Cホールディングス	27,379千株	38.39%
オカザキファン 投資事業有限責任組合	5,242千株	7.35%
あいおいニッセイ 同和損害保険株式会社	2,016千株	2.82%
岡崎 由雄	1,050千株	1.47%
河野 博晶	1,006千株	1.41%
株式会社サンエーコーポレーション	935千株	1.31%
宝天大同	735千株	1.03%
株式会社グッドワン	721千株	1.01%
堀澤 始	696千株	0.97%
DEUTSCHE BANK AG, FRANKFURT	444千株	0.62%

※持株比率の算定においては、発行済株式より自己株式(23,430株)を控除しております。

会社概要

(2011年8月31日現在)

商 号	株式会社テクスグループ
本 社 所 在 地	神奈川県相模原市緑区三井315番地
登記上の本店	東京都千代田区内神田二丁目15番2号 ※平成23年12月12日(月)に以下に移転いたします。 東京都千代田区神田佐久間町一丁目9番地
創 立	1923年(大正12年)3月20日
資 本 金	27億1,355万2,013円
従 業 員 数	88名(連結564名)
事 業 内 容	試験・計測・計量機器、ロードセル、圧力検出器、歪ゲージ、トルク検出器等のセンサー類その他の関連機器の製造・販売、受託試験、プラスチック成型品、木工品、射出成型用金型の製造・輸入・販売、健康関連商品の販売、不動産の売買、ゆるみ止めネットの販売
建 設 業 許 可	国土交通大臣許可(般-20)第17917号
宅地建物取引業者免許	東京都知事(1)第91405号

役員

(2011年8月31日現在)

代表取締役社長 (兼 企画統制室長)	山 本 勝 三
取締役副社長 (兼 最高技術責任者 兼 執行役員住生活事業本部長 兼 企画統制室参与)	藤 井 勉
取締役副社長 (兼 執行役員管理本部長 兼 企画統制室参与)	平 岡 昭 一
取締役 (兼 執行役員デバイス事業本部長)	藤 澤 賢 憲
取締役相談役 (KHI事業担当)	岡 崎 由 雄
取締役 (兼 執行役員試験機事業本部長)	添 田 正 道
常勤監査役 (社外監査役)	佐 藤 良 則
監査役 (社外監査役)	細 野 幸 男
監査役 (社外監査役)	江 田 巧
執行役員 (試験機事業本部副本部長)	管 野 善 則
	川 松 満

株主メモ

事業年度	3月1日から翌年2月末日まで
期末配当金受領株主 確定日	2月末日
定時株主総会	毎年5月開催
株主名簿管理人	住友信託銀行株式会社
同上連絡先	住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 ☎ 0120-176-417（通話料無料）
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同上連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 ☎ 0120-232-711（通話料無料）
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第二部
公告の方法	電子公告（掲載 URL http://www.tksnet.co.jp ） （ただし、電子公告によることができない事故その他の止むを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。）

（ご注意）

- 株主様の住所変更、単元未満株式買取・買増請求その他の各種お手続きにつきましては、原則として、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
- 特別口座に登録された株式に関するお手続きにつきましては、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行株式会社）にお問い合わせください。同行全国各支店でもお取次ぎいたします。

テークスグループホームページ
<http://www.tksnet.co.jp/>

IR情報はこちらからご覧いただけます。



ロゴマークについて

“技術力” “独創性” “人” “伝統” 全てをリンクさせ、一丸となって新しい時代へ向かうテークスグループの姿を表現するため、「青」「赤」「緑」「紫」を“光のイメージ”に展開しています。

青：テークスグループの技術力

真っ青な海や空を眺めていると不思議と心が安らぎ、ポジティブな気持ちになります。そのことから「青」は冷静、自立、希望を象徴し、また知性、誠実のイメージをもつ色といわれています。次代のシーズを冷静に判断し、お客様のご要望に的確に応えるため、あらゆる知性を集約した、テークスグループの“技術力”を「青」で表現しています。

赤：テークスグループの独創性

万物に恵みを与えてくれる太陽の色「赤」は、外へと向かうパワーを感じさせます。

情熱、エネルギー、ダイナミック、活動的なイメージがあり、幸運を招く色としても知られています。新しい次代へ挑むエネルギーとなる、テークスグループの“独創性”を「赤」で表現しています。

緑：テークスグループの人

自然の美しさや木々の芽吹きを連想させる「緑」は、すがすがしげ、新鮮さ、新しい可能性、生命力を象徴する色です。いつまでも新鮮で、新しい可能性に満ち、時代を乗り越える生命力を備えたテークスグループの財産“人”を「緑」で表現しています。

紫：テークスグループの伝統

染料の入手が困難なこと、染め出す技術が高度なことより、古来から「紫」は高貴な色として崇められ、また伝統、古典のイメージをもつ色です。1923年創業という長い歴史を誇る、テークスグループの“伝統”を「紫」で表現しています。

株式会社 テークスグループ
TAKES・GROUP LTD.

〒252-0151 神奈川県相模原市緑区三井315番地
 TEL 042-780-1650 FAX 042-784-6094



環境に配慮した植物油インキを使用しております